

## 1. 災害ボランティアの活動について

被災地で実施するボランティア活動のルールや心構えは、その対象が人であってもペットであっても、基本的には変わりません。

活動を円滑に進めるために、被災地での活動の注意点や被災者への配慮、自分自身の心構えなどを知っておく必要があります。

### (1) 災害ボランティア活動の三原則

災害ボランティア活動は社会福祉協議会、行政、NPO、企業など様々な主体が連携・協働して運営されています。これらの災害支援にかかわる様々な部門が議論する中で、現在の災害ボランティア活動は「被災者中心」、「地元主体」、「協働」の三原則によりすすめられています<sup>4</sup>。これは、後で述べる「スフィア・ハンドブック」の行動規範を取入れた考えであり、災害ボランティア活動に携わるすべての人が持つべき共通の認識とされています。

### (2) 心構え

災害ボランティア活動に参加する際の心構えには「自己完結」、「自己責任」、「被災地・被災者への配慮」、「多様性の尊重」の4つがあげられます。

#### 自己完結

自分で準備できることは自分でやりましょう。

装備や宿、食料などボランティア自身が利用するものは自分で準備するのが基本です。ただし、現地での買い物や飲食は被災地への経済的な支援に繋がることがあります。参加する場所や時期により状況は異なるので確認が必要です。ただし、確認のためとって被災地の自治体やボランティアセンターに電話で問い合わせることは、対応で多忙な現地の大きな負担になるので控えましょう。

4 災害ボランティア活動ブックレット編集委員会編、2019、被災地につなげる災害ボランティア活動ガイドブック

## 自己責任

災害ボランティア活動では、怪我や病気、事故のリスクが常にあります。万が一に備えボランティア活動のための保険に入ること、健康管理を心がけ、頑張り過ぎないように自分の体調と相談しながら活動することが自己責任です。

## 被災地・被災者への配慮

被災者には、家族や友人、自宅、仕事など、失ったものがたくさんあります。また、避難所や仮設住宅などの慣れない環境で様々な問題に直面し、不安な思いを抱えています。すべてを理解することは難しいことですが、被災者の気持ちを想像し、配慮した言動を心掛けましょう。

## 多様性の尊重

被災者のおかれている状況は一人ひとり異なり、災害の発生からのフェーズによってもニーズが変わります。また、避難所などでの集団生活では、高齢者や障がい者、乳幼児、日本語が不慣れな外国人など、特別なケアを必要とする人への配慮が必要となります。ボランティアには一人ひとりと向き合う姿勢が大切になります。

なお、災害ボランティア活動をする際に知っておいてもらいたい心構えや、最低限のマナーなどについては内閣府等がとりまとめています。ペットを対象とした災害ボランティア活動についても、基本的な考え方や取り組む姿勢は同じです。以下は「防災ボランティアの『お作法』集」<sup>5</sup>を一部抜粋し改変したものです。

5 内閣府防災担当、2009、防災ボランティアの「お作法」集～活動に参加するあなたへ、みんなでまもりたいこと～  
<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/volunteer/bousai-volunteer/kihan/pdf/051106osahou.pdf>

## ボランティア活動で心がけること

- ①災害からの復興は被災者が主体となって行うものです。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。
- ②防災ボランティアは、水・食料・常備薬・適切な服装・保険等、必要な備えをして自己完結することを原則に被災地に入りましょう。
- ③仕事がなくとも、ボランティアニーズをむりやり探し出すのではなく、被災地／被災者のことをよく理解するようにしましょう。
- ④仲間とよく話し合い、一人で仕事を抱えこまないようにしましょう。
- ⑤災害の規模、種類、地域などにより、災害ボランティアセンターの運営などに違いがあるのは当たり前です。あくまで、被災した現場が中心であることを忘れないようにしましょう。
- ⑥被災者の遠慮や警戒からニーズが出にくいことがあります。ボランティアだけではなく、地域内や近隣の方々と協力して活動しましょう。
- ⑦被災地内の災害ボランティアセンターは、地域内や近隣の方々が中核となって運営しています。外部支援者だけで意志決定をすることは避け、地域外の支援ボランティアは地元の運営を支えていきましょう。
- ⑧被災者のニーズは刻一刻と変わります。必要な支援物資に関する古い情報を流すことで無駄な物資が集中して、被災地の大きな負担になることがあります。マスコミやウェブサイトを通じて支援物資を要望するときには留意しましょう。

## ボランティア活動をする際のマナー

- ①自分のできることを見極め、例え被災者に頼まれても、自分や周囲を危険に巻き込むような仕事は引き受けないようにしましょう。
- ②防災ボランティアは、被災者の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことを避けましょう。
- ③必要以上に自分の経験を振りかざすことは避けましょう。

参考：内閣府防災担当，2009，防災ボランティアの「お作法」集～活動に参加するあなたへ、みんなでまもりたいこと～  
<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/volunteer/bousai-volunteer/kihan/pdf/051106osahou.pdf>

## ボランティア活動をはじめる前に

**受付**



ボランティアにご参加いただきありがとうございます。  
体調や安全に十分に気をつけて活動してください。

※事前にトイレを済ませておきましょう。



**持物**



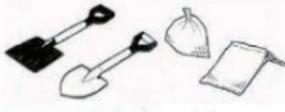
帽子・ヘルメット・雨具・マスク  
厚手のゴム手袋・長靴



お昼・飲み物・ウェットティッシュ



車のカギ、携帯、財布など貴重品は自己管理



作業に必要な資材

### 被災者の方々のきもちを配慮しましょう

**撮影禁止**



**騒がない**



- 現場が混乱しているため被災地では待たされることが多くあります。
- 現場の活動は被災者の気持ちを考えて行動してください。
- 早くやるより、丁寧な仕事を心掛けましょう。




- 助けてあげたい！というボランティアの気持ちと、不安でたまらない被災者の気持ちには温度差があります。
- 相手のペースでゆっくり話す、尋ねる際はリーダーが代表で聞くなど配慮してください。
- 活動中の写真や動画の撮影は禁止です。

長野市災害ボランティア委員会

## 活動先での確認と注意

**1 挨拶** 活動先で「長野市災害ボランティアセンターから来ました。」と伝えてください。

**2 確認**



活動内容は依頼者に確認



活動時間を伝える



室内で靴を脱ぐか確認



トイレの場所

**3 注意**

- 依頼者に確認を取りながら作業を進める
- 一人で作業をしない
- チームリーダーの指示に合わせる
- 危険なこと、できないことは受けない

※個人が特定される画像やSNSは禁止



**休憩**



30分～45分ごとに休憩  
(タイムキーパーを決める)

**安全**



安全、衛生には注意  
(昼食前の手洗い・うがい)

**ゴミ**



災害ごみの分別に協力を

- ケガをした場合や困ったことはサテライトかセンターへ電話してください。
- 雨や警報が出たらサテライトに確認し戻ってください。

長野市災害ボランティアセンター

**4 終了** 時 分 までにサテライトに戻ってください。

**5 帰着** ●サテライトもしくはセンターに帰着後、手洗い・うがい・長靴の洗浄・消毒を必ず行ってください。●リーダーは報告書への記入をお願いします。

長野市災害ボランティア委員会

### (3) 事前の準備

#### 1) 正しい情報の収集

災害ボランティアに参加する際には、まず現地情報の収集をしたいと思います。様々な情報媒体がありますが、特にFacebookやTwitterなどのSNSは手軽な情報収集ツールであり、これまでの災害でも活用されています。しかし、デマやうわさが広まりやすい媒体でもあることから、情報の取扱いや判断には注意が必要です。



Twitter



Facebook



被災地の役場や災害ボランティアセンター等に電話で問い合わせるのは控えましょう。多くの電話対応が現地では大きな負担になります。

「**現地の被害状況**」と「**ボランティアの募集情報**」については、以下の媒体などで確認できます。

#### ・ 現地の被害状況

テレビや全国版の新聞、地方新聞のほか、市区町村の災害対策本部のウェブサイトで被害状況が公開されます。被害が複数の市町村にまたがる場合には、都道府県の災害対策本部が、またさらに広域にまたがる場合には内閣府のウェブサイト「防災情報のページ」が公開されます。

内閣府「**防災情報のページ**」 <http://www.bousai.go.jp/>

#### ・ ボランティアの募集情報

ボランティアの募集情報は、被災地の市町村で災害ボランティアセンターに関する情報が入手できます。また、全国社会福祉協議会（全社協）のウェブサイト「全社協 被災地支援・災害ボランティア情報」では、災害ボランティアセンターの状況を一覧で確認することができます。

「**全社協 被災地支援・災害ボランティア情報**」 <https://www.saigaivc.com/>

<その他のポータルサイト>

・ yahoo! ボランティア <https://volunteer.yahoo.co.jp/>

・ ボランティアプラットフォーム <https://b.volunteer-platform.org/support/>

## 2) 十分な準備

### ・服装と持ち物

災害ボランティアの活動には様々な種類があり、その内容により適した服装や持ち物が異なります。作業に必要な機材や道具は災害ボランティアセンターから借りることができますが、服装や装備類は持参することが基本です。

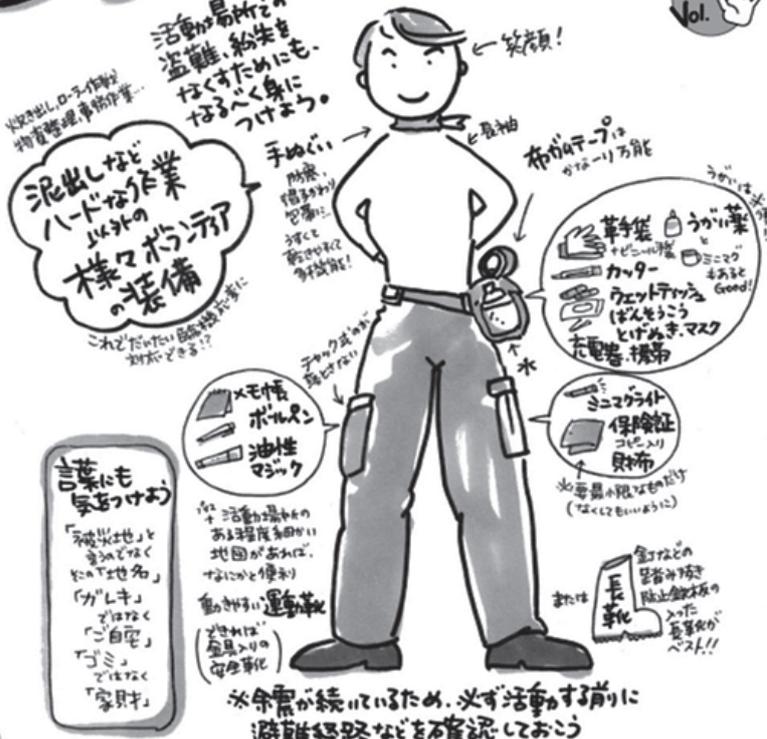
また、その人がボランティアであることが識別できる服装（ビブスや所属する団体・グループ等の腕章）や、身分証明書等を携帯することが求められています。

特定非営利活動法人 **レスキューストックヤード** 

**あるある** 

**55号**  
2011年5月発行

Vol. 



活動が長時間の  
盗難、紛失を  
防ぐために、  
はくすべく身に  
つけるよう。

泥出しなど  
ハードな作業  
以外の  
様々なボランティア  
の準備

手ぬぐい  
防塵、  
指輪、  
ピアス、  
ネックレス  
は避け、  
高圧洗浄機  
対策あり!

革靴  
うがひ薬  
+ビブス、  
ヘルメット  
カッター  
ヘルメット  
はみきこう  
とげみき、  
マシ  
毛髪、  
携帯

スマホ  
ポルペン  
油性  
マジック

活動場所の  
おとろけ度合い  
地図があれば、  
すなわち便利  
足のきつい  
運動靴  
(できれば  
金具、  
のり  
安全靴)

布巾4-7は  
4-7は1万能

ミニクラフト  
保険証  
コピー用  
紙布  
※得意な服は  
(はくせぬこと)

言葉にも  
気をつけよう

「被災地」と  
言わずに  
「被災地名」  
「カレシキ」  
「ご自宅」  
「ごみ」  
「家具キ」

※余震が続いているため、必ず活動する前に  
避難経路などを確認しておこう

**CONTENTS**

- P2~P3... 特集1 東日本大震災 RSYの動き
- P4~P5... 特集2 新潟県噴火災害 支援活動報告
- P6..... 紹介リレー
- P7..... れん5くちょう
- P8..... まめ豆知識

TEL **052-253-7550**

URL <http://rsy-nagoya.com/>

レスキューストックヤードって? 一災害時 (レスキュー) に役立つ「人・モノ・情報」を、平常時から蓄える (ストック) 場所 (ヤード) にしたいという意味

### 震災ボランティア活動での服装と持ち物の例

出典：特定非営利活動法人レスキューストックヤード「災害ボランティアの服装、携帯品」より  
<https://www.saigaivc.com/volunteers/preparation/>

## ・食事と宿泊

食事や宿泊場所は基本的に用意されません。宿泊施設は事前に確認し、必要に応じ事前予約を済ませましょう。災害ボランティアセンターが宿泊先を紹介することはほとんどありませんので、自分自身で手配するようにしましょう。食費や宿泊費は自己負担になります。

## ・交通手段

被災地に駆け付ける際の交通手段は自分で確保するようにしましょう。交通費は自己負担になります。緊急車両や災害復旧作業の妨げにならないよう、できるだけ公共交通機関を使用するようにしましょう。ただし、公共交通機関が被災により運行できない場合もありますので、事前に調べておく必要があります。

自家用車で移動する場合には、信号が稼働していないことや道路の陥没、ひび割れなど、日常の運転とは勝手が異なることに注意しておきましょう。

## ・ボランティア保険の加入

ボランティア保険は、事前に最寄りの社会福祉協議会の窓口で申し込むことができます。

ボランティア保険では、本人に対する怪我などの補償のほか、活動中に物を壊してしまった場合や、他人に怪我を負わせてしまった際の賠償責任も保証されます。

都道府県・指定都市社会福祉協議会のホームページ（リンク集）検索方法

<https://www.shakyo.or.jp/network/kenshakyo/index.html>